

## 「東ジュニア WS 報告書」

所属・氏名 文学研究科社会学専修 博士課程1回・KIM SUHYUN

## ① 学習成果

今回の東アジアジュニアワークショップでは、京都大学、ソウル大学、台湾国立大学の社会学科の学生らが北東アジア地域の教育、移民、社会問題をテーマにした研究調査を行い、その結果を発表した。学生たちが直接社会学的な研究調査を進めてそれぞれの研究方法論を紹介する場であり、社会学的アプローチを学ぶことに非常に助かった。ワークショップに行った前に、京都大学で行われた授業も英語で発表するために必ず必要な過程であり、教授たちと学友たちの助言を受けて発表を修正していく上で大いに役立った。台湾のワークショップの発表では、日本と台湾、日本や韓国などの比較研究方法を選んだ学生たちの発表が印象深くしており、東アジアの歴史的連関性と学的交流の必要性を知ることができた。ただし、単純な比較を超えて各社会の歴史的背景と文化、政治的状況をさらに深くのぞき見ることであったら有益だろうと考えた。

## ② 海外での経験

派遣者は、今回のジュニアワークショップを通じて4番目に台湾に行くようになった。以前の訪問には清華大学と Academia Sinica のセミナーに出席するためのものだった。今回の台湾国立大学ワークショップはセミナーや発表とともに、社会学科が準備したフィールドワークが印象的だった。台湾国立大学の学生たちは台湾社会と移民をテーマとしてフィールドワーク場所を選定し、ジュニアワークショップの最初の二日間のプログラムはフィールドワークで満たされた。初日には台北市内の Datong District に訪問し、そこで、慰安婦記念文化館と 207 Museum を訪問することができた。慰安婦記念文化館では慰安婦に関する記録と、生々しく証言を見ることができた上、207 ミュージアムでは台湾の窓飾りに対する歴史、そして50年代以降の音楽テープに関する展示を見ることができた。以降、Jhongsan District では台湾の代表的な監督ホウ・シャオシエンが設立した Film House に訪問し、メディア社会学を専攻する派遣者には重要な時間だった。フィルムハウスは Huashan District に二番目の映画館ができており、台湾の観客に対して芸術映画を上映する重要な空間としての役割を果たしている。

## ③ プログラム内容

初日ジュニアワークショップのプログラムは各社会の法と政策そしてその結果、若い世代と仕事と移住、社会空間的階層化、仕事と生活と移住に関するテーマで構成された。いずれも日本と台湾、韓国と台湾の比較研究家、適切に行われて興味深い時間だった。第二日には移民政策とメディアの流れを見ることが出来る時間だった。第二日には午後にシニアワークショップが一緒になされたが、シニアワークショップはさらに大きなテーマに長い討論と共に別途の時間が与えられていたら、よかったと考えられる。

## ④ 進路への影響

現在、派遣者は博士學位論文を執筆中で、今回のワークショップ期間の間に、論文のテーマである国際共同制作に参加した台湾の監督に会って、インタビューをすることができた。今回のインタビューは派遣者の論文にかなり重要な部分を占めている。大学院生には論文の準備と発表の機会になり、このワークショップは進路に良い影響をもたらすと思う。